

体育・スポーツ指導力養成プログラム通信

第5号 2019年度スポーツクラブ指導入門について

2019年9月20日発行

はじめに

2019年度のスポーツクラブ指導入門は4月24日にスタートし、7月17日の研究発表会をもって全ての内容を終了しました。今年度の受講生はやや少ない26名でしたが、7つの専攻から運動に対して異なる背景を持つ学生が集まってきました（Fig.1）。

受講理由を聞くと、「子どもと実際に接することができること」、「運動が苦手であるが、教員になった際にはスポーツの指導は欠かせない力だと考えるから」、「スポーツの指導に興味があるから」など様々ですが、今年度の受講生の特徴として「先輩・友人の勧めで受講した」という学生が多かったことが挙げられます。この授業の特徴は、講義に加えて、スポーツ教室での指導実習、さらに研究発表会を行うことにあり、知識の獲得から実体験を通じての学びにつなげ、最終的に学びの共有を図っています。これらの授業で得られる学びがこれまでの受講生からその周囲へと波及していることが感じられるものとなりました。

本号では、今年度の授業の様子から受講生の成長を紹介していきます。

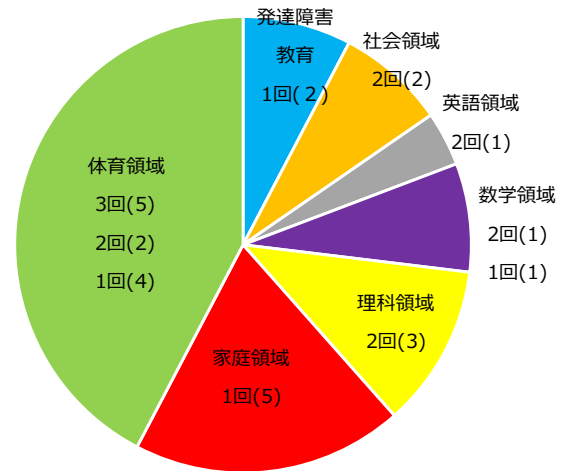


Fig. 1 2019年度受講生の内訳
(括弧)内は人数

1. スポーツクラブ指導入門 前半（第1回～5回：講義，第6回：実技，第7・8回：特別プログラム）

第1～5回は体育学科の教員3名、客員教授（元京都市立小学校校長）1名で、異なるテーマに関する講義を行い、第6回では実技を交えて運動指導の導入を考えました。第7回・8回では、昨年度に引き続き京都府・京都市教育委員会の先生を講師として招聘し、「今の子ども達の現状」、「教員として求められる力」を大きなテーマとして、小学校現場での経験も交えて大学教員の講義とは異なる視点からの講義が展開されました。

第1回 4月24日（水）KYO2クラブの成り立ちなど（担当：林 英彰，体育学科）

第2回 4月24日（水）発育発達期の身体的特徴と運動指導（担当：小松崎 敏，体育学科）

第3回 5月8日（水）学校現場における運動部活動の現状と課題（担当：海原 洋，客員教授）

第4回 5月8日（水）スポーツ指導に関する資格認定制度（担当：小山 宏之，体育学科）

第5回 5月15日（水）小学校体育，運動部活動の意義（担当：小松崎 敏，体育学科）

第6回 5月15日（水）スポーツ指導のための運動内容の考え方（担当：福田 博，北川 順一，客員教授）

第7回 5月22日（水）子どもたちの体力の実態等・教員として求められる力

（担当：京都市教育委員会体育健康教育室 指導主事 松村 典子）

第8回 5月29日（水）いま求められる教員としての力 ～学校での体育的活動を中心として～

（担当：京都府教育庁指導部保健体育課 指導主事 木村 友幸）

授業レポートより

理科領域
2回
岡田さん

現職の先生方の講義はとても貴重で良い経験となりました。講義を通して現代の子どもを取り巻く問題から、運動が好きな子どもを育成していくための工夫、運動が苦手な子どもへの配慮の仕方など、様々なことを学びました。また、子どもたちが進んでスポーツをしていくために一番大切なのは、子どもたちが「楽しい」と思えることであることを学びました。そのためには、一人ひとりの性格や能力などを理解して、それに合わせた指導をしていく必要があることを学びました。自分が教師になった時にも、一人ひとりを大切にしたい指導をしていきたいです。また、大人の考えである勝つことなどにこだわらずに、純粋に体を動かすこと、競技を楽しむことなど、子どもたちにとっての「楽しさ」にこだわっていきたく思います。

2. スポーツクラブ指導入門 後半 (KYO2 クラブ 4 教室における指導実習)

第9回目以降では、受講生を4つのスポーツ教室に配属し、各教室で3回の指導実習を行いました。以下に、各教室での活動の様子を写真と学生のレポートを交えて紹介します。



バスケットボール教室 (参加学生8名, 担当教員: 北川順一 客員教授)

第1回 5/15, 第2回 5/22, 第3回 5/29

授業レポートより

数学領域
2回
田中さん

受講して良かったと思える1番の理由は、やはり KYO2 クラブで実際に子どもたちと触れ合える機会があったからだと思います。初めて出会う子どもたちに、どう接していいのか本当に分からず、初回は何も行動できなかったのを覚えています。でも自分からいかなければと思い、積極的に子どもたちに話しかけにいきました。距離感を測りながらでしたが、少しずつ近づいていくことができました。 (中略) 子どもたちがとびきりの笑顔を見せて私の所へ走ってきてくれた時は本当にうれしかったです。子どもたちに「先生」と呼ばれて、私は教える立場にいるんだということを実感しました。 (中略) たった3回の実地でしたが、子どもとのかかわり方の難しさや、声かけの大切さを学ぶことができました。まだまだ満足のいく指導とは言えませんが、本当に貴重な体験だったと感じています。自分の専門外のスポーツを教えることに少し自信が持てるようになりました。この体験で学んだこと、考えたことをこれからの実習などで生かしていきたいです。

授業レポートより

体育領域
1回
佐藤さん

私はバスケットボールの低学年を担当しました。私自身子どもと触れ合うことは元々好きだったので正直簡単だろうと考えていました。しかし、多くの人数がいる中で、個々に応じた対応が難しく、全員が納得してバスケットボールを楽しんでいるとは言い切れませんでした。中でも1回注意したら納得してくれる子もいれば、何度注意しても納得してくれない子どもがいたり、一度きつく注意してしまうとその日の活動にずっとやる気のない子どもがいたり、注意する部分での難しさを特に感じました。また、活動にあまり意欲的でない子どもにつきっきりで指導していると「あの子だけずるい」と言われたこともショックな部分ではありましたが、この活動を通じてそのように考える子どももいるのだと良い経験ができました。



バスケット教室での一場面
(数学: 奥村さん)
(体育: 佐藤さん)



陸上教室 (参加学生5名, 担当教員: 福田晴也 客員教授)

第1回 5/26, 第2回 6/2, 第3回 6/9

授業レポートより

発達障害
教育 1回
浅田さん

私は運動が苦手でしたが、スポーツクラブ指導入門の紹介の際に「運動が不得意な人ほどこの授業をとってほしい」という言葉を受けて受講することに決めました。 (中略) そんな私ですが、授業を終えた今振り返ってみると、大変さ以上に大きな学びがあったと確信しています。私はスクールボランティアにも取り組んでいるので、子どもと関わることに自信を持っていました。しかし、スクールボランティアと比べると、陸上教室はより多くの児童が参加して、一人の教員の負担が全く違いました。もちろん大変さだけでなく、大規模な分盛り上がり、より楽しい授業になりました。大人数の子どもを相手にすることの難しさや、自分の工夫次第で変わる子どもの反応、教室をまとめることの面白さなどを学びました。また、スポーツ指導を通して教員に必要な能力を知ることができました。 (中略) 特に私に必要なものは体力と責任感だと思います。実地指導で身をもって私自身の体力のなさを実感しました。また教室をまとめるためには強い責任感を持たないといけません。このような能力を身に付けるために、大学4年間で色々なことに興味を持ち、色々な人と出会い、色々な経験を積んでいこうと思います。



陸上教室での一場面
(理科: 石塚さん)
(発障: 浅田さん)
(体育: 菅野さん)



体操教室（参加学生5名、担当教員：海原洋 客員教授）

第1回 6/19, 第2回 6/26, 第3回 7/3

授業レポートより

家庭領域
1回
鈴木さん

体操教室での活動では、「一人ひとりを大切に」の考え方をいかして行動に移すことができるかを考えることができました。私は、大学生になってから実際に小学生と関わり、指導をするという体験は初めてだったので、児童と関わる中でコミュニケーション能力を高め、より伝わりやすい言葉がけを身に付けることを目標に取り組みました。実際に児童たちの補助につく中で難しいと感じたことは、注意することやアドバイスをすることです。練習に頑張っている子や上手に技ができる子に対して褒める場面では進んで声をかけることができましたが、注意をしたりアドバイスをしたりする場面では「嫌われてしまうのではないか」、「やる気がなくなってしまうのではないか」という不安があり、なかなか声をかけることができませんでした。回を重ねるごとにそういった声かけにも少しずつ慣れることができましたが、これから先のインターンシップⅠ・Ⅱでの活動を通して、より力をつけていきたいと思いました。（中略）

大学1回生の前期の内からスポーツクラブ指導入門の講義を受け、体操教室での活動を通して実際に子どもたちと関わる経験ができたことは今後とても役に立つと思いますし、これから更にインターンシップと続けていく中で、教員としてのスキルを身に付け、子どもたち一人ひとりの気持ちを大切にできる立派な教員になりたいと強く感じました。

授業レポートより

英語領域
2回
古川さん

体操競技は見たことがあるくらいでほとんどやったことがなく、最初体操教室に決まった時は指導など考えられず不安でいっぱいでした。事前指導でも補助の練習をしましたが、タイミングが分からず全然できないまま本番を迎えました。しかし体操部のスタッフの補助の仕方を見たり子どもたちの動きをみて、だんだん補助が自分でもわかるくらいできてきました。補助ができてくると自然と子どもたちとコミュニケーションをとれて褒めたり、ハイタッチをしたり、できなくても励ますことができました。この頃には不安も消え、体操教室を楽しむことができました。（中略）

講義や実地指導の他にもスポーツクラブ指導入門で学んだことで、自分にとって大きな成長を感じました。この授業をとったおかげで本気で将来スポーツ指導に携わりたいと思う事ができました。そのためにも、子どもと積極的にふれ合ってみたり、陸上競技や体操競技以外の種目について指導法を調べていきたいと思います。この授業で学んだことを活かし、この先の教育実習などにも頑張っていきたいです。



体操教室での一場面
（家庭：鈴木さん）
（体育：井上さん）
（発障：平本さん）



サッカー教室（参加学生8名、担当教員：福田博 客員教授）

第1回 5/23, 第2回 5/30, 第3回 6/6

授業レポートより

体育領域
3回
岩崎さん

約4カ月の授業では学ぶことが本当にたくさんありました。三回生で受けましたが、正直実習前に受講しておきたかったと思います。（中略）サッカー教室では三回コーチとして参加しました。教室に参加している子どもは素直な子が多く、具体的な指導は中々できませんでしたが、アドバイスを素直に聞いてくれる子が多かったです。ただ、自分自身がサッカーをやっていたことがわかっていて、「あ、なめられているんだな」と思うことがたくさんあったのも事実です。専門的な指導ができないことは仕方ないことですが、もっと専門的な知識を増やして教室に臨むべきであったと思います。というのも、子どもは私がサッカーをやっていたことに対してなめているわけではなく、言っている内容を聞いて判断していたのだと思ったからです。自分が見ている思ったことをいうとあまりいい反応を見せなかったり、中には聞いてくれなかったりする子どもがいましたが、サッカー部のスタッフのアドバイスを真似てみると、子どもたちはしっかり話を聞いてくれていました。（続く）

(中略) 教室を重ねるごとに自分がなめられていると感じた原因はやはり自分にあつて、もっと知識を吸収して子どもたちが聞いたら上手くなれると思えるような指導ができれば良いのだと気づきました。(中略) 今回の経験で得たものは大きく、後期の主実習で活かしていきたいと思います。



サッカー教室での
一場面
(家庭：下畑さん)
(社会：是信さん)
(体育：松本さん)



3. 討論会から研究発表会 ～学びを振り返り、全員で共有する～

学生は8グループに分かれ、7月10日(水)に研究発表会にむけて学びを振り返る討論会(右写真)を行いました。研究発表会の発表内容としては「スポーツ教室における実地指導での学び」という大きなテーマを設定していますが、このグループワークにより、各グループは学びを具体的なものに落とし込んでいきました。7月17日(水)の研究発表会では、「子どもとの関わり方」、「スポーツを安全に行うための環境づくり」、「個々の違いに応じた指導法」、「子どもへの適切な支援」、「教員としての資質・能力」をはじめ、多種多様な学びが示されました。そして、聞き手となっているグループは各グループの発表内容に共感しつつ、理解を深めるために多くの意見交換が学生同士で行われました。発表会の最後には昨年度にスポーツクラブ指導入門を受講し、その後インターンシップⅠ・Ⅱを終えた島根さん(体育領域専攻・2回)に来てもらい、インターンシップによる自分自身の成長について話をしてもらいました。その中では、約1年間の継続的な子どもたちとの関わりの中で、自分の変化がどの部分に生じ、教員への階段をどのように上がっているかについて、実体験を通じて具体的に語られ、もっと話を聞きたかったという受講生の声もありました。

今年度のスポーツクラブ指導入門はここで終わりますが、多くの受講生がインターンシップへと進みます。この学生たちがインターンシップを修了し、成長した姿で次の後輩たちにエールを送ってくれることを期待します。



研究発表会が終わり、ほっとするとともに充実した表情を見せる受講生たち

教職キャリア高度化センター
スポーツ指導者養成部門
体育・スポーツ指導力養成プログラム
(担当) 小山 宏之